

HoLEP 勉強会

新潟第二病院泌尿器科

吉水 敦



全国済生会泌尿器科医会（会長・上領頼啓下関市立豊浦病院院長）主催の「第2回HoLEP勉強会in新潟」が昨年10月24日、当院で開催されました。同医会は「人的交流、情報交換、共同研究などを通して済生会施設における泌尿器科診療の充実、連携を図る」ことを目的に平成23年に結成。今回は当院で実施している極めて低侵襲の平岡・吉水式HoLEPの技術講習会で、24年に続いて2回目です。

参加者は、熊本病院1人・福井県済生会病院2人・〈大阪〉吹田病院1人・坂泌尿器科病院1人・金沢大学1人。正午からHoLEP2件のほか内視鏡手術と検査3件を見学してもらった後、私がHoLEP等についての講義。その後、病院近くの割烹で地物の食材を使った料理を肴に交流会を開きました。

手術後の講義では、結石用と考えられている30Wの低出力ホルミウムレーザーでも症例を絞ればHoLEPは可能であること、現時点では私が開発した平岡・吉水式HoLEPが一番合理的なHoLEPの術式で

あることを説明しました。約1時間半の講義の中では、私が経験し、日ごろ次の世代の医師に伝えたいと思っていたことも話しました。

その内容は、プロの仕事は結果がすべてであり、与えられた条件の中で結果にこだわら、泥臭くても最低限の結果を出し続けることが重要であること。読んだことや人の意見は参考とはするが、最後は自分の目で見たこと・感じたこと・考えたことを自分なりに整理し責任を持ってやってみて、その結果に責任を取り続けることが次の結果につながることに。考えること・本物を見ることが重要ですが、まず何が本物なのかを見極める能力が必要であることです。

現在、金沢大学病院では低出力ホルミウムレーザーでの平岡・吉水式HoLEPが開始される予定で、福井県済生会病院からは技術研修のために当院に出張する話が進んでいます。今回のような催しを続けることで、今まではなかった技術・人交流がさらに拡大されることを期待しています。

「泌尿器科医会」の



6月には東京でスキルアップセミナー

泌尿器科医会は、済生会病院の同じ診療科の医師同士の交流を深めようと熊本病院の副島秀久院長の呼びかけで有志が集まってスタート。現在は、上領院長が会長を務められ、昨年6月に第4回総会と第3回スキルアップセミナーを大阪のアストラゼネカ日本本社で開催。今年6月6日には〈神奈川〉横浜市東部病院の中島洋介副院長に世話人をお願いし、第5回総会と第4回スキルアップセミナーを東京アステラス社の会議室で開く予定です。

今年のテーマは尿路結石で、私が経皮的尿路結石除去術の話をし、八戸平和病院の三浦浩康先生が経尿道的尿路結石除去術について講演されます。二つの手術では今の日本でトップクラスの実績を持つ医師の講演となるはずですので、これから泌尿器科を目指す研修医の方々にもぜひ参加していただきたいと思います。

済生会の今後10年の行動計画である「第四次基本問題委員会報告」では、専門分野ごとに研究グループを



編成し学術交流を促す、とうたわれています。我々、会員もその方針に沿って活動し、実績も上げつつあると自負しています。しかし現在、会の運営は、院長会からの若干の援助と製薬会社のサポートで会場を確保し、その他は会員個人の負担に頼っているのが実情です。今後、早急に済生会としてバックアップする体制を構築していただきたいというのが現場からの願いです。